

創学舎ニュース

No.243

中三生はまだ伸びる

●中三生の受験も一部の私立入試と公立の一般入試を残すのみ。疲れ果てて、もうやる気が出ないとぼやいている人も少なくないだろう。しかし、ここで立ち止まるな。あと十日間。最後のひとふんばりだ。なぜなら、中三生はまだまだ伸びるからだ。そのことを、具体例をあげて説明しよう。

●まずは、理社が苦手という生徒のこと。模試でも過去問でも、三十点台。ところが、創学舎の直前補習で生まれかわり、本番では、今まで見たこともない高得点！わずかに二週間前は、四十点の理科が本番で八十点とか、いつも四十点の社会で八十五点とか…。ウソではない。こんな人達が毎年ゴロゴロいる。もちろん八十点を九十点にするのは大いに可能性がある。

●次。過去問をやって目標点に届かない生徒。まだ伸びる。まずケアレスマスが何点ありますか？それは得点に変えられます。当日だけ気をつけよう、はダメ。あと十日間で、今までのケアレスマスの所を全て頭の中にたたきこむのです。それから、解答を読んですぐに理解した問題が何点ありますか？それも得点に変えられます。

す。何故なら、理解できるのは、すでに頭の中に知識が入っているからなのです。あとは、それを引き出す訓練のみ。

●分かったかい。分かったら今から十日間。一時間＝一点のつもりでがんばれ。そして、あなたの夢をきつとかなえよう。(小林)

県立入試直前の注意

●県立入試も直前となった。公立高校を目標に努力してきた人にとって、その努力の成果がためされる時だ。自分の持てる力を十分に発揮して、志望校合格を果たしてほしい。今回は、直前の注意をしておく。

●ケアレスマスは、命とり！県立の入試は、問題が比較的易しいので、合格のためには高得点が必要である。いくら力があってもミスによる失点が多ければ合格はおぼつかない。

●字は丁寧。紛らわしい字はすべて×になるというのは、採点官の話です。

●問題はよく読め！ミスをしないためにも、問題をきちんと読むことが必要である。記号で答えるべきものを、語句で答えたりしないよう十分な注意をすること。

●理社は試験当日まで、いくらでも伸ばせる！弱い部分があれば、集中的にやること。また、社会は、時事問題も忘れずに目を通しておくこと。

●英語は、まず、直前テキストの単語・書き換え・連語を徹底してやること。特に、曜日・月・季節・数字などの基本的な単語は絶対に出るの要注意。この部分で失点しなければ、かなり有利に闘っていけるはず。他の項目も直前テキストを繰り返し返して、完全にできるといふ自信をつけておくこと。

●数学は、計算ミスを絶対にしないように！また、全問解けなくてもあわてないこと。解けるものから確実に解いていくように。

●解答欄はすべてうめること！県立の入試は、比較的易しいのは事実だが、すべての問題に解答できるはずがない。当然、分からない問題もあるはずだ。そのときは、得意の勘を働かせて答えを書き入れること。もしかしたら正解かもしれないのだから…。

●また、公立入試は、一日目に五教科のテストをし、二日目に面接や小論文など、その学校独自の検査を実施することになっているが、とにかく初日が勝負。五教科の学科試験をしっかり乗り切ることだ。その際、気をつけてほしいのは、悪い科目があっても、それを次の科目に引きずらないことだ。五科目すべてが順調にいくことなどありえないことだから。たとえ、一教科、二教科出来が悪くても、他の科目で挽回。例えば、東葛合格者の中に、国語七十点台という人がよくいることを紹介しておこう。

●二日目のことは、一日目が終わってから考えるぐらいでよい。二日目の検査では、余り差はつかないはずだ。ただし、小論文の検査がある人は、少し準備をしておいたほうがよいかもしれない。

●最後に、テスト当日は三十分位時間をとって問題を解いてから家を出ること。そうすることで眠気がとれ、頭が使える状態になるはずだ。

●とにかく、もう目の前まで来た。精一杯の努力をして目標を達成してほしい。健闘を祈ります。(小林)

世界が敵に

まわった日(その11)

●前号の続きで、大人達へのメッセージです。

●あなたの親は、あなたのために、親の成熟度と能力の範囲内で、きつと精一杯のことをしたのです。子供であるあなたは(そして、自らも親となったあなたは)自分の親がしてくれたことを思い出せますか。それに感謝していますか。親と暮らした日々をなつかしく思えますか。あなたの親は、今もあなたのことを心配しています。親として、もう出来ることはなくなっても、あなたはいつまでも子供です。

●そしてあなたは忘れていませんか。今のあなたを支えてくれる人達のことを。友人や同僚や親類や近所の人。何もしてあげることができない

いけれども、あなたのことを気にかけてくれる人が、何人もいるのではないですか。たとえ家族関係がうまくいっていないとしても、あなたの家族は、あなたのことを気にかけています。自分の子供が生まれた時、大喜びしたことは覚えていませんか。子供の成長をみて、うれしかったときがたくさんあったのではないですか。

●親が子供に向かうとき、心のどこかに平安がなくてはありません。たとえ逆境にあるうとも、怒りにうちふるえていようと、不安でたまらないとしても、心のどこかに平安がなければなりません。そして平安の基の大きな一つは、記憶です。その記憶の中にある甘い、熱い、そして時にはいやされるような香り。その香りは、あなたの体験がもたらしてくれるものです。(何度も述べますが、私の心の平安は、過去からつい最近までの体験のおかげです。)体験を思い出すことである程度の平安が得られます。その平安をもつて子供に向かうことが必要です。そして、子供にとっては、親と向きあうこと自体が体験なのです。何千回、何万回くり返されるありふれた場面。それも体験なのです。その体験における一方の人物の心の中に平安がないとしたら…。子供の体験は、無味無臭、いや場合によっては、つらく淋しく不快なものになってしまいます。どうぞ、子供達の一日一日を大事にしてあげてください。

●そして、体験の中で自分がうけとった愛情や誠実さや正義が言葉にできるのであればそれも伝えて下さい。世代をこえて体験を共有することもできませんが、それを言葉でうけとることも体験です。

●さて、「世界が敵にまわった日」という題で長々と連載してきましたが、とりあえず、今回で終わりとします。(次回より、「親子の関係」再開の予定です。)十一回にわたる連載で語りたかったのは、人は一人では生きられないこと、いろんな障害や逆境はいつでも発生しうることで、そして、その中で人の「生」を支えるのは、周囲の愛情であるということです。大人達は、親に、心の持ち方をもうひとがんばり。子供達は、大人達も大変なんだということを理解しなければなりません。伝え方が下手だったり、本当に疲れていたかもしれない親でも、あなたのことを一番気にかけているのは、あなたの親のはずです。(小林)

一生懸命取り組む

●一生懸命取り組む。生徒を見ていて、私は学生時代までに何かに一生懸命取り組んだことがあるかどうか考えた。するとどうであろうか。ほとんど思い浮かばない。お粗末である。ところが今でもはっきりと覚えていることが一つあ

る。大学祭である。

●私の大学では、学園祭は学生主導で行われていた。企画、運営を実行委員会、自治会、放送研究会の三団体で行っていた。私は放送研究会だったが、私の所属していた団体では、大学祭の企画決定後、ステージの設計、機材手配、学内外交渉、ステージの機材設置、本番の運営等を行っていた。建材(工事現場の足場)を組み立てたり、かなり本格的に行っていた。打ち合わせも学内外問わず多種多様にあり、一大イベントの運営である。だから内部でも問題がかなり起こる。しかし毎年行うのである。

●私が三年生の時、上級生として先導する役割を担っていた。私は渉内として大学や他団体との交渉を引き受け、かけずりまわった。やっている最中は内外問わず問題が発生して、正直なところ、「なぜこんな思いをしなければならぬのか」という思いが大きかった。それでもなんとかみんなをまとめて無事に終えることができたが、終わったときは、ほっとしたという程度の気持ちだった。ところが、それは時間がたつてから私の中では大きな経験となつていることに気付いた。そのときには嫌で嫌でたまらなかつたことが、後になって本当にやってよかったと思えるようになったのだ。なぜそう思えるのか。しばらくはよくわからなかつた。しかし数年たつてからあることが見えてきた。

●「楽しかった」「もう一度味わいたい」と思うことは、そのときにはただ楽しいことだけではないのである。むしろその時は辛い、苦しい、逃げ出したいと思つていることのほうが多いのである。単にせつな的に楽しいということでも記憶に残るが、それとは質を異にするのである。後者はその後日常に戻ったときの活力の源となる。では前者はどうか。それは困難にぶつかったときに乗り越えるための糧となるのである。社会生活を行い、そして仕事をしていく上で重要なことである。企業の求人や体育会系の学生が好まれるのは、先に述べたような経験をしていることが多いからだろう。

●正直いって、私は勉強においてはこのような経験はしていない。少なくとも自分ではしたと思つていない。その私が今、受験真っ只中の生徒を見ていてこう思う。辛いことを乗り切った後に必ず成長した自分がいる。それも経験するのは早いほうがいい。だから逃げないで乗り切つて欲しい。因みに、生徒達の苦しい場面に立ちあえる自分はこの仕事できてよかったと思つている。(岡本)

★卒業や転校等で創学舎を離れる方にも、ご希望があれば、創学舎ニュースを無料で送り致します。在籍した教室までご連絡下さい。